

復 命 書

2011年6月18日

新政会 代表
望月 厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2011年6月18日（土）	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	女性のための政治スクール第17期 剛堂会館（千代田区紀尾井町3-27）
	(2) 対 応 者	円より子校長 村木 厚子 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）
3 目 的	17期目を迎えた今回のテーマは、3月11日の震災を受けて、「質実国家をめざして」です。毎回タイムリーなテーマ、さまざまな講師の話が聞けて参考になる。これまでのエネルギー政策や日本人の生活様式の問題点、国の在り方などなど、今こそ、国難を乗り越えなければならない時。地方行政の在り方の見直しも含めて、経済、社会保障、雇用、税などの問題点を探る。この目的を達成すべく、参加する。	
4 内 容	<p>『子どもと子育て世代の未来のために』 内閣府 政策統括官（共生社会政策担当） 村木 厚子 氏</p> <p>現状把握</p> <p>① 諸外国と比較して、我が国の出生率は最低の水準で、低下の一途 ② 2055年には、子供の出生率は現在の4割に・高齢化比率は2倍に生産年齢人口は、2分の1に減少</p> <p>出生率低下の要因</p> <p>① 晩婚化の進行と夫婦出生児数の減少 ② 未婚率も上昇傾向</p> <p><u>独身男女9割は結婚意志があり、子供も2人以上希望している</u></p> <p>↓</p> <p>希望と現実の乖離→その要因</p> <p>収入が低く雇用が不安定な男性の未婚率高い 非正規や育児休業が利用できない職場で働く女性の未婚率が高い 育児休業が取りやすい職場で働く女性の出生率高い 男性の家事育児分担度が高いほど第2子以降の出生希望が高い</p>	

	<p>で、若年者の非正規雇用が高いし、女性の就業継続がむずかしい、また、子育て世代の男性の長時間労働が目立ち、子育ての孤立化と負担感が増加している。</p> <p>何が必要なのか！</p> <p>子ども・子育て支援政策と労働政策による車の両輪</p> <p>① 働き方の改革②仕事と生活の調和の実現←→①親の就労と子どもの育成・家庭における子育てを包括的に支援する枠組み（社会的基盤）の構築</p> <p>出来るだけ速やかに軌道に乗せる事が必要</p> <p>★新しい仕組みによる改革の方向</p> <p>子ども園（仮称）の創設・幼保一体化</p> <p>質の高い学校教育・保育の一体化</p> <p>すべての子どもの健やかな育ちの実現。結婚、出産、子育ての希望がかなう社会の実現。⇒幼保一体化を進める</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>政府は、今後幼保一体化を進める方針だ。私が聞いた現場の方々の声では、かなり無理なことだと思う。市内にある、安東幼保園の成果を聞いてもあまり納得のいくものではない。女性が働き続けるためには、もっともっと社会的支援が必要だ。それと並行して、働く場、雇用の創出もなくてはならない。また、非正規で働く女性が多いが、2重役割分担になりかねない。男性のライフワークバランスの確立。特に育休取得の普及が筆致だ。子育て支援は働く人ばかりのものではない。家庭での子育ての支援も必要だ。子育ての社会化は言うまでもない。まだまだ待機児童がいる我が市では、厳しいところもありますが、少しでも前に進みたい。いまや、婚活もめずらしくない。積極的に進めるべきだ。男性の給料三百万円ほどあれば、結婚してもいいかな～と思うそう。夫婦で働き続けられる環境さえあれば、そこそこ少子化の解決にも繋がる。3歳神話は馬鹿らしいことだと思うが、働きたいと思う時子育てがネックにならない社会的セーフティーネットの構築を我が市も率先してしていかなければならない。子育てするなら静岡で！！と堂々と言えるようにしていきたい。今後、国がモデルケースの募集を実施したり、支援の現物支給などある場合は、静岡市としていち早く手を挙げてほしいものだ。</p>

(注)

- 1 この別紙は、視察先ごとに作成すること。
- 2 連名により作成することも可能。
- 3 この様式により難しい場合は、別の様式によることができる。